

## Building lifestyle around Ferrari

### 感嘆符に込めた小さなこだわり

50年ぶりのワークス復帰を100周年のル・マンで果たし、見事総合優勝を飾ったフェラーリ。  
その記念号とも言える表紙に、実は小さなこだわりがある。

50年ぶりのワークス復帰でル・マン総合優勝！表紙に入れたこのタイトルをご覧になって、何か気がつかれたことはあるだろうか？恐らくほとんどの方が気にされないと思うのだが、実は1点だけ編集者の小さな、とっても小さなこだわりが込められている。それは"！"である。

びっくりマーク、エクスクラメーションマーク、感嘆符など、読み方はいろいろあるが、感嘆符を入れると勢いが出るので、世の中では結構多用されている。ご自身のSNSやブログを見返して、思い当たる方も多いただろう。しかしこれまで本誌では極力使用しないようにしてきた。それはなぜかと言えば、見た目がどこか子供っぽく見えてしまう（と思っている）から。多くのフェラーリ・オーナーにお読み頂いている"高級誌"の矜持として、落ち着いた雰囲気を大事にしているのだ。

しかし今回敢えて使用したのは、もちろんそれだけ大きな出来事だから。ル・マン100周年で、フェラーリ50年ぶりのワークス復帰。正直、"今回現地に行かなくてどうする！"とギリギリまで迷ったが（ちなみにここでも"！"が心情を表現）、スケジュールや予算と何度も向かいあった結果、どう考えても無理と泣く泣く断念。しかしゴール直前、今号のページを作りながらネットで生中継を見ていて、やはり後悔した。まさか総合優勝するとは、何というできすぎのストーリーなのか！

これを奇跡と呼ぶことには抵抗があるものの（だって実力だと思っから）、時にスポーツの神はこうして奇跡とも思える結果を気まぐれに与えるから、感動するのである。大谷が最後トラウトを三振にとったのと同じ類の話だ。なお右上の写真は最後まで迷った表紙の別候補。優勝していなければこちらを選んだが、"！"を使用したタイトルとの組み合わせはビットロードのほうがマッチしていたので、現在のものに落ち着いた。

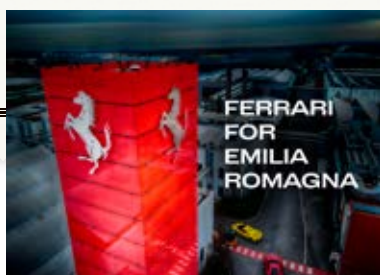
しかしその一方で、起きて欲しくないことも世の中では起き



てしまう。エミリア・ロマーニャ州を襲った豪雨による洪水被害だ。コロナ禍以前の数年は、年に一度はその近辺で取材してきたので知り合いも多く、とても他人事とは思えなかった。あまりその後の情報が入ってこないが、この場をお借りして1日も早い復興を祈りたい。なおフェラーリはすぐに、州の領土安全・国民保護庁に100万ユーロの寄付を行っている。

さて最後に、本誌の価格についてご報告させて頂きたい。既にお気づきのとおり、今回から定価を3280円（本体2982円）にあげさせて頂いた。前号と比べると大幅な値上げとなり、正直かなりの葛藤はある。しかし様々な"コスト増"を、何かを削って"コスト減"することにも抵抗があり、高級誌としてのクオリティを維持するため苦渋の決断となった。

しかしその分、今号もフルスイングさせて頂いた。ル・マン現地に行かなかったからこそ維持できた"SCUDERIA クオリティ"をお楽しみ頂ければ幸いである！！



文 ● 平井大介  
text by Daisuke Hirai  
写真 ● 田中秀宣 / フェラーリ  
photograph by Hidenobu Tanaka / Ferrari S.p.A.